

滝沢市水道事業のあゆみ

～あたりまえを未来へ、みんなでつなぐ水の道～

創設当初、滝沢市の水道水を利用している人は1,500人ほどでしたが、3度の拡張事業を経て、現在では5万人近くの方々が水道水を利用しています。

また、創設当初は金沢川、その後諸葛川を主な水源としていましたが、水質の悪化や河川水量の減少及び猛暑による大濁水を受けて、地下水を水源とするようの方針を変えました。現在、滝沢市の水道水は99%以上が地下水を水源として作られています。

今日の滝沢市の発展があるのも、先人のたゆみない尽力、市民の皆様や多くの関係者の方々の多大なるご支援とご協力によるものです。水道は極めて重要なライフラインであり、将来にわたり安全・安心な水道水の供給を持続することが必要です。

おいしい水として親しまれている滝沢市の水道水を、次の世代につなげていけるよう、ご協力をお願いします。

～一本木簡易水道統合～

- ◎主要施設：大湧口水源、一本木配水池など
- ◎おもな給水地域：一本木
- ◎事業費：2,311,314千円

～第3次拡張事業～

- ◎主要施設：姥屋敷水源、小岩井配水池など
- ◎おもな給水地域：鶴飼、篠木、大沢、大釜
- ◎事業費：2,241,150千円

柳沢大湧口の湧出量は1日当たり2,600万リットル、1秒当たりになると300リットル！
これは、500ミリリットルペットボトル600本分に相当するよ

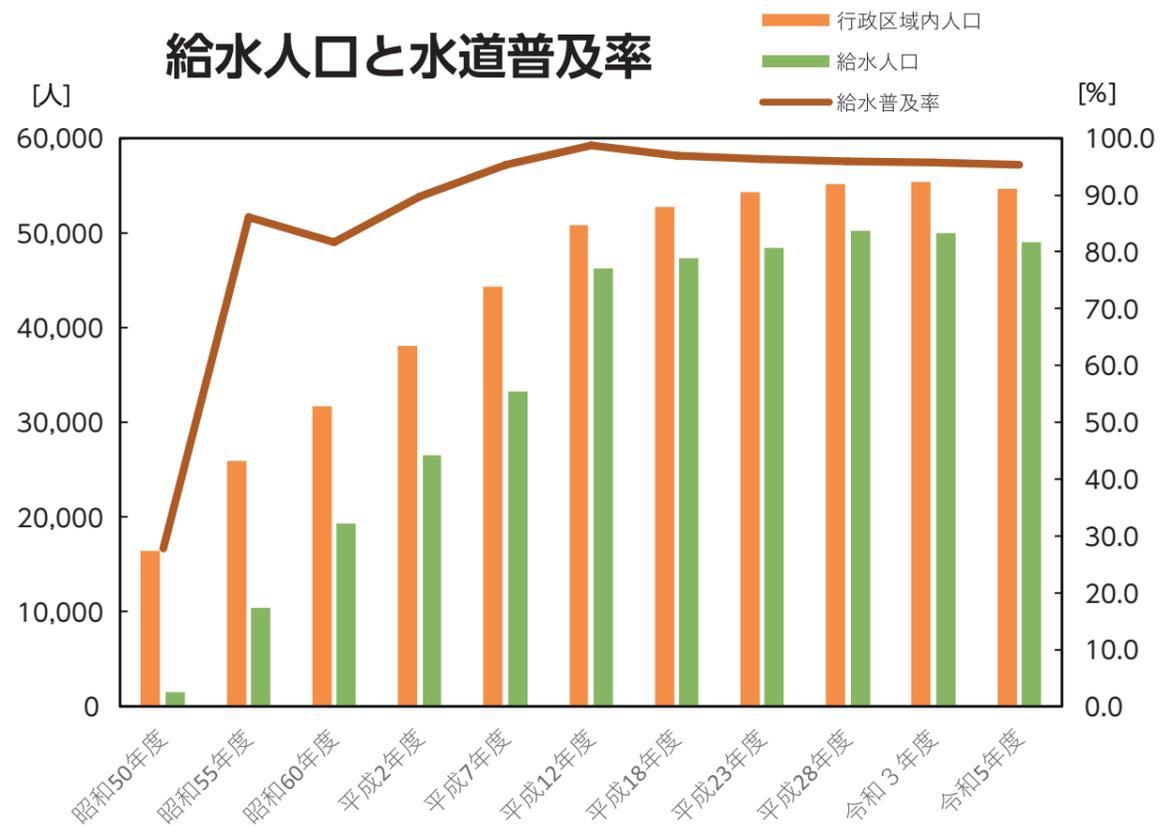


柳沢大湧口

1995年（平成7年9月）から第3次拡張事業を開始しました。事業は2001年（平成13年12月）に完了し、姥屋敷水源を開発して安定した地下水源を手に入れました。

また、第3次拡張事業と同時期に民営であった越前堰簡易水道と市営の小岩井簡易水道を上水道に統合し、開発した姥屋敷水源から篠木、大釜地域等にも供給を開始しました。

給水人口と水道普及率

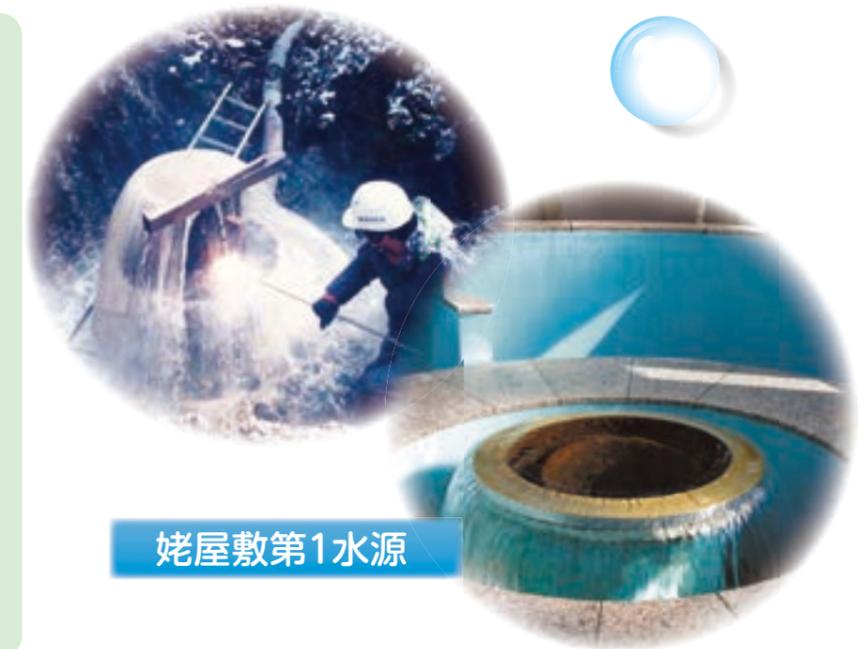


2010年

2000年

2012年（平成24年6月）一本木地区簡易水道統合に向け事業を開始しました。事業は2018年（平成30年3月）に完了し、一本木配水池等が整備され柳沢大湧口の湧水を利用し一本木地域に供給しています。

また、昔から「おいしい湧水」として一本木や柳沢の人々に親しまれてきた大湧口は、岩手山の火山活動により噴出した溶岩等で形成された地層に長い間降り積もった雨雪が地下に浸透し、湧出したものと考えられています。



姥屋敷第1水源